

議会です こんにちは

もくじ

- P12~15 ・特集 4年間を振り返って
・こんなことが決まりました
- P16~18 ・第1回定例会一般質問項目
- P19 ・広報特別委員会が、
広報常任委員会に変わりました

特集 4年間を振り返って

各委員会が委員会の活動を振り返る作業は、今まで行われてきませんでした。委員会の構成は1任期で満了し、新たな委員で構成されることが起因すると考えられます。だからこそ、「検証作業が必要ではないか」という、次につながる課題の共通認識を持ち、今後を注視していただきたいと特集を組みました。

議会運営委員会

議会運営委員会は地方自治法で法制化されている委員会です。専管事項として①議会の運営に関する事項②議会の会議規則、委員会に関する条例等に関する事項③議長に関する事項がそれぞれ定められています。

留萌市議会では今期、「議会活性化推進特別委員会」を全議員で構成しました。議会の活性化や情報公開、市民参加なども含めた調査・研究、議会基本条例策定を目的として、小委員会を含めると百回以上の委員会開催を経て、「わかりやすく・開かれた・市民と共に」の議会を実現するための条例として留萌市議会基本条例を昨年六月に策定し、十月より施行しています。

このため、議会運営委員会として新規に策定される議会基本条例と、関連している多くの現行例規の整備を行う必要がありました。

留萌市議会会議規則と留萌市議会委員会条例では、逐条解説を整備したほか、留萌市議会傍聴規則の一部改正や議会として「協議の場」を設置する各規程を制定したこと、法的根拠をそれぞれに持

たせることができました。

また、留萌市議会運営基準を制定し、三百三十項におよぶ内容について地方自治法、地方自治法施行令、留萌市議会基本条例、留萌市議会会議規則、留萌市議会委員会条例との整合性を図りました。

特別委員会の解散後は、議会運営委員会の所管事項として、「効率的かつ効果的な議会運営に関する事項」の条項が加わり、留萌市議会基本条例の検証をする場合に確認しなければならない三十二の項目を列挙し、半年間（現任期）の検証を行いました。

議会運営委員会は、今後も機能強化が求められる委員会であり、「市民と共に」を標榜する議会として務めを果たしていきます。



▲議会運営委員会

第一常任委員会

第一常任委員会が担当する所管は、総務部・地域振興部・都市環境部です。この四年間はほぼ毎月、委員会を開催しました。

委員会の進め方は、各部からの報告や議案の説明を受けて、所属委員から質疑を行います。

議論の中でも特に印象に残る事項としては、二つあります。一つ目は平成二十五年一月の大雪の経験を経て、二十五年年度の除雪の状況や市民の苦情などの調査研究を行ったことです。この調査研究の内容を踏まえ、二十六年十一月に「市民と議会の意見交換会」を開催し、除雪をテーマに市民の皆様からたくさんのご意見をいただきました。高齢化が進む状況の中で、いただいた貴重なご意見を真摯に受け止めて、今後も委員会では、留萌市の除雪のあり方について所管と活発な議論をし、審議を深めて参りたいと思っています。

二つ目は、農業と福祉の連携による六次産業化です。昨年九月に、旧幌糠中学校を活用した六次産業化のための農産物処理加工施設が完成しました。施設では、市内の障がい福祉サービス事業所と連



▲第一常任委員会

携し、利用者の方々が製品の製造作業を担当して、てぎり干し大根の生産を始めています。

留萌市の農業政策として、地域素材を使った新たな農産品の開発などが最重要項目であり、この六次産業化の推進は、障がい者の就業の場の確保につながると考えられます。また、今年度は、農業を核とした産業創出と地域連携による「ものづくり」拠点の形成が計画されており、今後も所管に関わるさまざまな課題に対し、積極的に現地調査や議員間討議を行っていきます。

第二常任委員会

第二常任委員会では、市民健康部と教育委員会、市立病院の所管事項の調査と研究をしてきました。四年間で、特に審議を深めた二つの事業について報告します。

一つ目は、留萌小学校改築についてです。留萌市内の小中学校は、平成二十三年に策定した留萌市立小中学校適正配置計画により統廃合が進められています。

また、沖見小学校閉校以降の統廃合の考え方について審議してきました。PTAからは、沖見小学校の子どもたちの安心と安全を最優先に考えた通学路の確保や教員の配置など六項目の要望書が教育委員会に提出され、これに伴い改築計画の変更が了承されました。

築後四十年を経た留萌小学校は、老朽化や耐震性低下解消などのため改築工事が進められ、昨年十一月に校舎が完成し、新しい留萌小学校になりました。

新校舎の落成式を一月に終えてこの春からは、三百十四人の児童が新校舎で学校生活を送っています。今後は、旧沖見小学校の利活用策について審議を深めていきます。



▲第二常任委員会

二つ目は、特別養護老人ホームの待機者対策についてです。留萌市内の特別養護老人ホームは、二十四年八月現在で、萌寿園（五十床）のみであり、百七人もの待機者がいました。この現況を踏まえ、地域密着型特別養護老人ホーム二十九床の整備事業が承認されましたが、二十九床の整備が困難となつて二十床に変更されました。常任委員会は、二十床とした根拠を伺い、不足の九床の補充について要望しました。

常任委員会では、特別養護老人ホームの待機者対策に向けての積極的な政策を要望し、第六期高齢者保健福祉計画、介護保険福祉計画のそれぞれに施設整備の充実に目指すことが明記されました。

消防組合議会

留萌消防組合議会は、留萌市と小平町で構成する一部事務組合議会です。留萌市が五名、小平町が三名の計八名の議員で構成しています。

四年間を振り返る中で特筆すべきことが二つあります。

一つ目は一般質問の確立です。消防議員として、提案された議案の審査だけでなく、消防行政に係る多岐にわたる懸案事項を管理者である市長に直接問うことが出来る機会に恵まれました。このことは、現状はもちろん、今後の消防議会運営に生かすことのできる契機だと確信しています。

二つ目は、消防庁舎改築の実施についてです。一般質問でも論じられていた事柄でもあり、現状の消防庁舎は老朽化が進み、有事を想定した場合にはあまりにも劣悪な状態にあるため、その対応は喫緊の課題であると考えられていました。このため、留萌市民の安心と安全を守る常備消防の要である消防庁舎が、今期に改築工事の着手ができたことについては非常に喜ばしく思っています。

新庁舎の工事完了は平成二十七年



▲消防組合議会

年十月末、外構や訓練塔、消火栓などの工事は二十八年度になる予定です。また、消防救急デジタル無線の整備も行われるほか、二十八年五月末までに本工事と合わせた運用訓練を完了する予定です。これに伴って、消防活動の効率化が期待できます。

今後は、車両を含めた資器材など施設整備をはじめ、消防団に関する諸課題や市民を対象にした救急救命講習の実施、防火防災の啓発などについて、あらゆる視点と観点でしっかりと対応していきます。

広報特別委員会

広報特別委員会の四年間を振り返ると、広報特別委員会として初めて市内の街頭に立ち、アンケート調査を行ったことがとても印象に残っています。

アンケートでは、FMもえるを活用した議会の試験放送の聴取調査や議会における広報のあり方などについて多くの市民の皆さんに伺うことができました。

その結果、今の形のままでは、広報特別委員会が市民の皆さんに説明責任を果たしていく機能が不十分であるとの結論に至り、常任委員会化に向けての取り組みを始める契機となりました。

また、機能強化を図るとともに、議会活性化や開かれた議会の実現と必要性の実証が求められているため、改選期後の常任委員会への円滑な移行への調査も実施しました。

さらに市民の声の反映に重点を置いた広聴機能の充実に取り組んでいる白老町を訪れ、調査を実施しました。白老町では、議会広報の発行だけでなく、インターネット中継や懇談会の開催、委員会から出向いての活動などを行っ



▲広報特別委員会

ていました。白老町の取り組みは、街頭アンケートで要望があったことも多くあり、今後の活動の参考になる事例ばかりでした。

留萌市の広聴機能の課題としては、議会運営委員会が中心となつて行う市民と議会の意見交換会などとの連携と事業仕分けが必要だと考えられます。

広報特別委員会として一定程度の広報発行という責務は果たしてきましたが、今後の取り組みとしては、広報の発行だけでなく、高め、広く市民の声を聴く努力が求められると感じています。

南部衛生組合議会

留萌南部衛生組合議会活動を振り返りますと、市民の皆さんをはじめ、小平町や増毛町の皆さんにも大変ご迷惑とご心配をかけた四年間であったと考えています。

増毛町内に建設したごみ処理施設の倒壊事故では、議会としてもこのような事案に直面したことがなく、人身事故に至らなかつたことを一番に感謝した状態でした。

倒壊直後の建設施工業者からの説明会では、多くの質問が議員からも出ていました。事故調査委員会からの報告を受け、このような事故が二度と起こらないよう、議会でも多くの議論を重ねてまいりました。

また、新しいごみ処理方法については、慣れない処理に不便を感じている多くの皆さんに代わり、分かりやすい説明を理事者側に求めてきました。

今までのごみ分別政策では、資源化ごみの取り組みが不十分でした。議員それぞれの考えに大きな開きがあり、ごみ袋の大きさや袋の材質、管理など多方面にわたる議論を繰り返してきました。皆さんに大変な手間をおかけしてい

ることは十分理解しながらも、限られた資源の有効活用と財政負担の軽減などの面からも現在の形になった経緯がありました。しかしながら、もつと議論を開かれたものにし、途中経過などの情報が、広く告知できていなかったことと反省するものであります。

有害鳥獣の処理施設や小平町に建設した生ごみ処理施設など今後さまざまな課題が続くことが予想されますが、これからも暮らしやすいマチの施設運営に携わる議会として、一丸となって頑張りたいと考えています。



▲南部衛生組合議会

こんなことが決まりました

第1回定例会 平成27年3月3日~17日

平成27年第1回定例会は、3日から15日間で開催され、報告2件、議案36件、決議案1件、意見書案7件について審議しました。

報告

・専決処分の報告について（損害賠償について） ほか1件 ……了

議案

- ・平成27年度留萌市一般会計予算 …… 原案可決
- ・平成27年度留萌市国民健康保険事業特別会計予算 …… 原案可決
- ・平成27年度留萌市後期高齢者医療事業特別会計予算 …… 原案可決
- ・平成27年度留萌市病院事業会計予算 …… 原案可決
- ・市長等の給与の特例に関する条例の一部を改正する条例制定について …… 原案可決

ほか31件 …… 原案可決

決議案

・鶴城雪子議員に対しブログ記事の削除と謝罪を求める決議 …… 原案可決

意見書案

・農協関係法制度の見直しに関する意見書 ほか6件 …… 原案可決

平成27年第1回定例会 一般質問と答弁を 紹介いたします

坂本 守正 議員
(民主クラブ)

一、都市計画道路「見晴通」の今後の整備見通しについて
二、新教育委員会制度について

問 都市計画道路「見晴通」の整備は、道道として整備するが、今後の整備見通しについて現時点での計画スケジュールを伺いたい。道路拡幅により沿線住民が多数移転対象となる。このため、今ある街並みの形成や地域コミュニティを守りながら整備を進めるとしているがどのような施策を考えるのか。着工し完成まで数年の歳月がかかるが留萌市が担う今後の役割は。

答 平成二十八年度の新規国庫補助事業についての妥当性を審議する公共事業評価専門委員会に対し、見晴通が事業評価地区として登録され、五月下旬頃に公共事業評価専



▲見晴通として整備される予定の見晴10号通り

門委員会に対し諮問、答申がなされ、翌年度事業の概算要求を行って年度末に財務省内示により事業決定となる。事業者である北海道と情報交換を密にし、最新の情報を提供し、移転対象者が今後の生活に困窮することのないよう、支援を最大限行っていく。

問 新教育委員会制度では首長の任命権によって中立性を損なう可能性が懸念されるがどう思うか伺いたい。

答 新教育長へのチェック機能の強化や教育委員会議

二十七年途中で策定していきたい。

問 「新・財政健全化計画」の七力年において、人材確保にさまざまな問題が生じてきているが、現在の市役所組織にはどのような課題があるのか、また、どのような組織が望ましいと考えているのか伺う。

答 時代の変化やニーズを的確に捉え、スピード感を持って、住民目線での行政サービスを将来にわたって、しっかりと持続させていく組織体制に向けて、優秀な人材を確保していく。また、より職員の意欲が高まり、働きがいを感じられるよう、さらなる研修の機会や頑張りが適切に評価される取り組みなどを進めて行く。



▲市役所の組織体制

透明化を求めたものと認識し合議制が維持され、一般住民による意思決定が行われる仕組みも堅持されると考える。

村山 ゆかり 議員
(萌芽クラブ)

一、留萌市の高等学校再編に係る考え方
二、留萌市の環境保全とクリーンエネルギー

問 留萌市における高等学校教育のあり方を考える会から、再編に伴う使用校舎を現留萌千高高校とし、管内中心校として適した新校舎整備を望む要望書が道教委へ提出される予定と聞いているが、再編統合までのスケジュールと考える会の決定に対する市長の考えを伺いたい。

答 今議会終了後、道教委などに要望書を提出。六月に計画案が公表された後、地域別検討協議会を経て、九月に配置計画が決定され、平成三十年度には統合予定。留萌の子どもたちのために真剣に研究協議してきた考える会の決定を尊重したい。

問 平成二十八年度運用開始予定の留萌ダム管理用小水力発電導入による留萌市水道

川口 宏和 議員
(萌芽クラブ)

一、これからの地方創生に向けて
二、これからの市民生活の利便性の向上に向けて

問 これからの留萌市を考えていく上では今住んでいる地域で、安定した仕事があって、安心して子どもを産んで育てたいけるマチでなければならぬ。これからの留萌市を支えていく若い世代に対しての支援が重要だが、若い世代に対する支援をどのように考えているか聞きたい。

答 地元企業に新たな挑戦をしてもらうことが必要と考えている。支援策としてはこれまで取り組んできた地域資源を活用した新商品の開発や異業種連携による展開など厳しい経済環境の中でも果敢にチャレンジする活動、空き店舗を活用した開業、起業などに対して支援を続けるなど今後も国や道の制度を調査、研究し、支援していきたい。

問 今は元気に自分で車を運転している方も、年齢を重ねると多くの交通弱者が増える可

事業への効果を伺いたい。環境基本計画は、二十七年年度までだが、新たな計画策定に向けた取り組みを伺いたい。

答 河川維持流量を利用した発電の可能性検討と長期停電など不測の事態に対処するための発電設備。留萌ダムの商用電力量が減ること維持管理負担金の軽減につながる。

新たな環境基本計画は、平成二十七年年度素案作成。関係団体からの意見聴取を行い、来年一月に最終案を環境審議会に諮問したい。



▲小水力発電を導入する留萌ダム

鵜城 雪子 議員
(無党派)

一、留萌市の暮らし向上の施策について
二、留萌市の安心で豊かなま

性能が高いと思う。今後、家の前まで迎えにくるデマンドバスを導入する考えはあるか聞きたい。

答 これからも地域懇談会や地域公共交通活性化協議会などで意見交換を重ね、地域に合った地域公共交通のあり方を検討したい。



▲日東団地を走るコミュニティバス

天谷 孝行 議員
(留萌公明党)

一、地方創生と留萌経済の再生について
二、まちの安心安全と賑わい創出

問 「地方創生」の施策に交流人口の拡大があげられる。

船場公園は、交通の接合点で中心市街地に近く、留萌港に隣接し、今後高規格幹線道

ちづくりについて

問 増毛町では、平成二十五年には二百五十万円だった寄附金が、二十六年では一億円を突破した。他都市でもふるさと納税に対するさまざまな取り組みが行われているが、留萌市では寄附に対する特典品は「新留萌市史」となっている。広く全国に向け、留萌市の認知度を上げるためには、留萌の魅力が発揮できる工夫が必要であると考えているが、市長の見解をお聞きしたい。

答 特産品などの取り組みについては調査、研究していく。新規の寄附者が初回の寄附から特産品を含め、寄附者自ら選択できる方法を検討する。



▲留萌市応援基金のパンフレット

問 商工会議所に委託した「商店街空き地・空き店舗情

路が進入する状況を見ると公園整備は「道の駅」を想定して進めてきたように見えるが、今後の推進策を聞きたい。

答 国の「地方創生」という流れを受け止め地域経済の活性化と、雇用の確保を図る施策に取り組みたい。船場公園は、市民や来訪者が憩う公園として整備し、平成二十七年で完成する。道の駅は交流人口の増加や地域の消費拡大に効果があると認識している。船場公園の「道の駅構想」については、貴重な提案として受け止め引き続き慎重に検討を重ねる。



▲船場公園

問 平和台・日東団地・自由ヶ丘団地の袋小路地域は見晴通の整備で解消されるのか。

答 「見晴通」の整備により日東団地は大きく改善され

広報特別委員会が、 広報常任委員会に変わりました

これからは、より活発な広報を目指します。

広報特別委員会では、議会広報の発行が年4回と決められているだけでした。これからは議会広報の編集作業だけではなく、市民の皆様幅広く意見を求めたり、どんな方法で発信していくかを議論し、実現することができるようになりました。

議員の活動や議会の活動状況などは、現在のかわら版、FMもえるの放送だけでなく、より多くの媒体を視野に入れて議論に励んでいきます。

委員会の組織力がアップしました。

常任委員会（定数8名） ◎委員長 ○副委員長 ●委員6名

所管事項

- ア 議会広報誌の編集及び発行に関する事項
- イ ホームページやラジオなどの活用による議会の広報に関する事項
- ウ その他議会の広報に関する事項

- 委員会
- ・ 委員会は年4回定例会開催月と必要に応じ委員長が招集
 - ・ 小委員会からの報告および協議を実施

小委員長会議

- ・ 常任委員会
提出案件について

編集小委員会（定数4名）

◎小委員長 ○副小委員長

●委員2名（常任委員長含）

- ・ 広報誌の編集、発行
- ・ 広報誌の調査、研究、充実など

事業小委員会（定数4名）

◎小委員長（副常任委員長）

○副小委員長 ●委員2名

- ・ 議会かわら版 ・ ホームページ
- ・ 新たな広報、広聴の調査検討など

議会では、皆様のご意見求めています。あなたの声をお聞かせください。

詳しくは、留萌市議会ホームページ (<http://rumoishigikai.hokkaido.jp/index.html>) をご覧ください。

が、平和台・自由ヶ丘団地については課題が残っている。見晴通は市立病院への通院や、緊急搬送に時間短縮が図られ、災害時は低地から高台に避難する道路として活用される。見晴通が担う機能は極めて重要と認識している。

坂本 茂 議員
(無会派)

一、経済の地域内循環活性化について
二、教育行政執行方針について

問一 国が進める「地方創生」につながる事業計画として、地元木材の活用により、雇用を生み出し経済の循環を目指すべきと思うがいかがか。国・道の施策や補助事業の情報提供をはじめ、行政として本気で考えるべきと思うが見解を伺いたい。

答一 地域における製材業などの起業化への可能性を探るため、市内および近隣地区から将来にわたり搬出される木材の資源量把握と採算性の検証を行う。木質バイオマスによる利活用も含め、地域材利活用による雇用創出と経済の

地域内循環の活性化について、さまざまな研究を重ねていきたい。

問一 学校図書館活動、読書活動の成果と課題について伺う。

答一 学校図書館は児童生徒の健全な教養を育成するために必要なもの。学校図書館ボランティアの協力を得て、子どもたちが「笑顔で学校図書館に足を運びたくなる」「本が読みたくなる」と、長年の地道な取り組みが「文章を読み取る力」につながっている。

問一 学校図書館は児童生徒の健全な教養を育成するために必要なもの。学校図書館ボランティアの協力を得て、子どもたちが「笑顔で学校図書館に足を運びたくなる」「本が読みたくなる」と、長年の地道な取り組みが「文章を読み取る力」につながっている。

問一 学校図書館は児童生徒の健全な教養を育成するために必要なもの。学校図書館ボランティアの協力を得て、子どもたちが「笑顔で学校図書館に足を運びたくなる」「本が読みたくなる」と、長年の地道な取り組みが「文章を読み取る力」につながっている。



▲留萌小学校図書館

公共施設の長寿命化に向けた方向性や省エネをどのように考えているのか伺いたい。

答一 留萌市は平成二十二年から、庁舎一階フロアーの一部をLED化、二基の省エネ対応のボイラーを導入し電気や燃料消費対策を行っている。今後においても公共施設等総合計画を策定し、統合や改築等を実施する際は、省エネ対応の整備を原則とし、施設利用者の省エネ意識を高めていきたい。

問一 観光産業の確立に向けた交流人口の拡大について、具体的にどのような考えなのか、また、外国人観光客の来道者が右肩上がりの状況を市長はどう分析しているのか伺いたい。

答一 留萌おもいやり・おもてなし物語を進め、もう一度留萌を訪れたいという留萌ファンを増加するよう、「うまいよ！るもい市」や道内外での事業の実施や関係機関との連携で交流人口の拡大を図りたい。また、外国人観光客の来道者は毎年増え続けていることから、あさひかわ観光誘致宣伝協議会と連携・情報交換をしながら観光客誘致を

検討し、さまざまなメディアへ協力をを行い、留萌のPRを実施していきたい。

対馬 真澄 議員
(萌芽クラブ)

一、平成二十七年教育行政執行方針より留萌の子どもを取り巻く現状と課題

問一 全国体力・運動能力調査では、平成二十六年度の調査によると全道平均を下回る結果になっているが、課題をどう考えているか。「一校一実践」の体力作りの取り組みとは。

答一 子どもたちが運動と触れ合う機会をどうつくるかが課題と考える。小学校には体育専科教諭を配置し、一校一実践の取り組みとして、小学校では中休みの時間を使った運動の機会や反復横跳びライ



▲海外からも注目されるるもい浜焼き

ンの設置、中学校では体育授業の中で筋力、持久力をつける運動を行うなど各学校の特徴を生かし取り組みたい。

問一 子どもが病気になったとき、保護者が看病するのが前提で安心できる状態である。しかし、仕事を持っていく保護者には仕事を休めないで困っている状況が調査によって明らかになった。病児保育事業実施に向けての問題点、実施の目標年度について伺いたい。

答一 仕事を持った保護者にとって必要な施策と考えている。しかし、病児保育をするための設備、人材の確保、医療機関との連携が必要となる。他の自治体のさまざまな取り組みを研究し、実施を判断したい。



▲体育専科教員の指導を受ける児童